

CO₂を出す石炭火力か？ それとも放射能を出す原発か？ は してはいけない選択です！！



6月28日から大阪で開かれるG20首脳会議の前段階として開かれた、G20エネルギー・環境相会合の共同声明には「(原発の)廃炉と高レベル放射性廃棄物の最終処分について国際連携の価値を認識することが重要」との文言が明記されたと報道されました。このことはもちろん大事なことです。要するに今現在、核のごみの最終処分の方法は見つかっていないということです。

現在、世界で唯一北欧のフィンランドで地層処分を行うオンカロ処分場が建設されていますが、ここを見学した小泉純一郎元首相が語っているように、北欧の強固な地盤に比べ、地震大国である日本では10万年にもわたって安定して人類から核のごみを隔離できる地層はないのです。

ところが4月に政府は温暖化対策を名目に小型原発を開発推進していく方針を打ち出しました。小型であろうと原発が稼働すれば核のごみが生み出されることに変わりありません。それに原発は発電する時にはCO₂を出しません。ウランの採掘から始まって、廃炉までの全過程を見れば、再生可能エネルギー発電よりもずっと多くのCO₂を出すのです。温暖化対策などというもったらしい名目で国民を欺くことは許されません！

また、政府は温暖化対策を言いながら、一方では昨年決めたエネルギー基本計画で、2030年の時点でも石炭火力発電の電源構成比26%維持をうたっているのです。欧州諸国は軒並み脱石炭に向けてかじを切っており、フランスは2021年までに、イギリスは2025年までに、そのほかの国も2020年から30年代にかけて石炭火力を全廃する方針を示しているにもかかわらずです。

こうした姿勢の中、国内では石炭火力発電所の建設が建設中と建設計画を含め20件もあるとのこと。のみならず、海外にもインフラ輸出と称して複数の石炭火力発電所の建設計画を進め、政府も石炭火力発電の技術輸出を後押ししているのです。



**地球の生き残りをかけ
日本でも**

**原発および石炭火力にNO！を突き付け
再生可能エネルギー発電を全力ですすめる政府を作りましょう！**

